

不具合撲滅目指す

住宅技術品質協会全国大会

全国住宅技術品質協会（斉藤武司代表理事）は24日、東京都墨田区の東武ホテルバント東京で一般社団法人移行後、初の全国大会を開いた。全国から約200人が参加し、住宅建築に起因する不具合の撲滅や安全衛生・品質確保に向けた研さん・研究などに積極的に取り組み、住宅業界全体の発展を目指していくことを確認した。



始めに、山口喜廣副理事長が「住宅の安全・安心、技術

・品質の向上を目指していきたい。今後、全身全霊を持って取り組んでいく」と力を込めた。写真。

続いて斉藤代表理事が、協会の趣旨を説明した。一般社団法人設立（2016年7月1日）の狙いとして「リスク・対策情報の普及」「品質および技術の向上」「業界内の枠を超えた連携によるシナジー効果の期待とビジネスチャンス創出」「産学官との連携によるレジリエンス性の高い住宅の実現」を挙げた。

協会では地盤調査、補強工事、建物検査、測量の各委員会を設置するとともに、広報活動にも力を入れていく。

このあと、東京電機大の安田進副学長による「熊本地震について」をテーマとした特別講演もあった。

